

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念は「よいめぐりを世の中へ」で各ユニットフロアーに掲示し職員は実践している	会社理念をもとに、事業所独自のビジョンを決め、常に全員が自ら学び考え行動することで、職員も入居者もあるべき姿を描きそれにむかって「チームで挑み、チームで成長する」ことを目指し努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板に施設のお便りを入れてもらい地域の方にも施設の存在を知ってもらっている。コロナ禍でなかなか地域の方との繋がりが持てていない状況	町内会に参加し、町内会長と連絡をとりあい、地域の情報を得るとともに回覧板に事業所の行事や取組といったお知らせを載せてもらっている。コロナ禍の状況と照らし合わせながら、地域の福祉祭りへの参加、事業所行事へ近隣の人たちを呼ぶことを考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域との繋がりが薄く地域貢献は出来てないと思われる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの状況が落ち着き、ようやく12月にメンバーを招いて会議を開くことが出来た	参加者を、家族、市役所の高齢福祉課担当者、地域包括、町内会長などとし、年に6回の開催を目指しており、12月にようやく一回目の会議をもつことができた。これからは確実な開催を目標にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故の連絡報告は何かあったらその都度行うようにしている。分からないことは質問状を使い問い合わせるようにしている	事業所の連絡や報告は都度行い、担当者との連携をとっている。市などからの研修の連絡は都度入る。安城市のグループホーム連絡会にも入っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必ず月に1度は身体拘束についてカンファレンスで状況を確認している	身体拘束についてユニット会議などの機会を使って勉強している。現在はエスケープ事例もあったことから玄関を施錠しているが、理由を含め家族や職員に説明している。安全のためにセンサーマットの使用も考えているが、都度、家族への説明理解し理解が得られたら行う。スピーチロックについてまだ勉強会は開いていないが、管理者が都度指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、虐待が発生しない見逃ごされないよう努めている		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設では日常生活自立支援事業、成年後見制度について学ぶ機会が少なくケアマネの更新研修等で学んだ。なかなか制度を活用できていない		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、不明点がないかその都度確認するように努めている		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、意見・要望・不明点について利用者家族に確認を行っている	事業所へ面会来所の時、また電話連絡の時を利用し、家族の意見をきくようにしている。「日中は起きていても、体操もさせてほしい」「施設という単語を使わないでほしい」といった要望があり、職員間で共有し反映させている。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議では参加するすべての職員が自由に意見を言えるようになっている。また、ちょっとした事ならLINE WORKS等でも自由に意見を発信し運営に反映している	社風として「自分から発信する」とあり、入居者についてわかったこと、支援についてわからないこと、いいこと、わからないことなど常にLINE WORKSにあげている。月に一度は個別面談もあり、職員意見をくみあげている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自身の頑張りを自身でプレゼンする「ジブンジマン」等の制度があり、給与水準等にも反映されるようになっている		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の所持資格、ケアの力量等を考慮し、研修を受ける機会を確保している		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者が地域のグループホームの会議に参加し交流を図っている		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初は世間話から始め、困ったことはないか、痛い所は無いかなど定期的に聞くようにしている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、仮契約、本契約時に分からないこと、不安なこと等を聞き答えるように努めている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のサービス担当者会議にて本人、家族様の意向を確認し、必要な支援を見極めている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方の関係にならないようにコミュニケーションを行い、アセスメントを常にしている。一方的な説得するような会話ではなく納得して生活できるように心掛けている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様、家族様との絆を大切にしながら、職員と家族様で本人を支えていくよう努めている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様との関係は切れないようにしているが、それ以外に関しては支援できていない コロナ禍でも、家族との触れ合いを大切に、実家へ帰宅したり、墓参もあった。家族にあてて、手紙を書く入居者もいて、他の入居者へも働きかけクリスマスカードを送った。面会も居室でできる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	こちらが関わらなくても、利用者様同士声を掛け合っていることがある。必要に応じて支援する程度である
22		○関係を断ち切らない取組み	

	サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	系列施設に移動入居された利用者様に関しては定期的に経過確認を行っている		
--	--	-------------------------------------	--	--

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの中から、入居者様の思いや意向について関心をはらい、希望に添えるように努め困難な場合は寄り添い表情や行動から意向の把握が出来るように努めました
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者面談、アセスメント、入居前の担当ケアマネから情報収集を行っている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者面談、アセスメント、入居前の担当ケアマネから情報収集を行っている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的ユニット会議を開き、またケアプランを定期的に見直していることで、その人にあったケアプランを作成している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さなことでも気づきをカナミックに入力するようスタッフに指示し、情報共有できている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人の状態に応じ、系列施設に移動入居したり、家族に協力を頂いたり、柔軟に対応している

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握が不十分で、協働が行えていない現状です		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回訪問診療はあるが、必要に応じて専門医に診てもらおうように支援している	協力医の往診は月2回で、何か有ればLINEWORKSで共有され協力医の指示を仰いでいる。専門医受診の際は紹介状を出して貰い付き添いは基本家族だが、緊急時は職員対応されている。受診後は本人や家族からの説明や、医師の提供書を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には看護職がないので系列施設の看護職と連携を取り、LINE WORKSにて情報共有を行っている。受診の依頼指示出れば対応するようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のSWIに連絡を取り、入居者様の状態確認を行い、早期に退院ができるよう連携を取っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループ施設への移動や、看取りについてもご家族様と話し合い本人・家族の望む形で最後を迎えられるように努めている	入居時にホームの方針を家族に説明し同意が得られている。ホームでは医療行為を行っていない為段階ごとに話し合っ意向の確認を行い、連携を図って取り組んでいる。又法人施設等への移行への対応を支援し家族から安心が得られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社から3ヶ月以内の研修内容には盛り込まれているが、それ以降は実施できていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い災害に備えている	昼夜想定で避難訓練を年2回実施し、水消火器の訓練や避難経路の確認等行っている。開設して1年余りなので地域との協力体制はこれからである。備蓄品として水、食料が用意されている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を尊重しプライベートな部分への配慮を行った上で、個々に合わせたケアが出来る様に努めている	入浴、排泄介助時はドアを閉めたり、居室に入る際はノックや一声掛けるように気を付けている。又失禁やオムツを持参する時はさり気なく配慮ある対応に心掛けている。口頭での引き継ぎ等も利用者に聞こえないようにプライバシーに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや希望を遠慮なく伝えられたり、自己決定が出来る様にスタッフは寄り添い、ゆったりとした気持ちで接するように心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人が自分のペースで思いのままに過ごせるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2~3ヶ月に一度は訪問カットにて整容したり、男性ご利用者様は髭が伸びっぱなしにならないよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好をスタッフで共有し、季節の行事に合わせた食事を提供しています。後片付けに入居者様の力をお借りしています	食事は配達され献立は決まっているが、利用者のリクエストや行事食の際は変更している。出来る利用者にはテーブル拭き、皿洗い、野菜の皮むき、盛り付け等手伝って貰っている。手作りおやつとしてホットケーキ、ババロア、アイスクリーム等出されている。利用者にあわせ刻み、代替品を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録にて食事摂取量、水分摂取量を確認している。食べる量も本人様の意向を確認するようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には本人様任せにしている。認知症の重度の方に対しては定期的に口腔内の確認を行っている		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの理解と適度にトイレへの声掛けを実施している	カナミック(電子カルテ)で利用者の排泄状況やパターン等の情報を共有し、自立に向け支援している。自立の人にはさり気なく見守る対応に心掛けている。夜間は自立の人、声掛け、リハビリパンツからオムツにする等其々の対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解しており、排泄チェックにて確認予防をしている。飲食物での工夫はできていない		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日などは決めてしまっているが、拒否が合った場合は無理せず曜日をずらしたり、午後に入るなど工夫している	入浴は基本週2回で午前浴となっているが利用者の体調や気分にあわせられるように配慮している。自立の人はドア前での見守り、拒否の人には無理強いせずに声掛け工夫や職員や時間を変えて入浴に導いている。入浴中に思いや意向が聞ける人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れずに起きて来られる入居者様には、飲み物を提供し、話を傾聴し安心して入眠できるように支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服時の名前確認を怠らず、語薬ない様に注意しています。内服後の状態観察に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループホームの家事を利用者様の役割として担当してもらったり、レク等で嗜好品をお出ししたり好きなものを楽しんでいただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援が出来ていない。家族様と外出することは出来るため家族様にお任せしている	コロナ禍で外出は出来ていないが、ホーム周辺を暖かい日は散歩に出掛けている。家族とは病院受診後に自宅、ドライブ、食事等する人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している利用者は一部である。お金を使うことの支援はまだ行っていない		
51		○電話や手紙の支援			

		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	クリスマスカードを書いてもらって家族様へ贈ることをした		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア、居室は常に過ごしやすい室温を保っている。季節の飾り付けをし、居心地良く過ごせる様に支援している	施設は新しく掃除、換気が毎日行われ、清潔に保たれている。リビングや廊下から見える中庭には複数の花と苺等が植えられていることで、季節が感じられる。ユニット間の行き来がしやすく利用者同士の交流がされている。リビングのテーブルは利用者同士の関係性に気を付けて配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースであるリビングにソファを設置したりして、そこで楽しく会話をされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族様に居室のレイアウトはお願いしている。定期的に面会に来られている家族はその都度何かを持参され、居心地よい空間づくりを行って来られている	居室はベッド、エアコンが設置され、テレビ、筆筒、姿見の鏡、家族写真、靴、服等馴染みの物が多く持ち込まれ利用者其々が居心地良く過ごせる空間造りがされている。掃除、整頓、換気は担当職員が行い、寝具や衣類の入れ替えは家族にお願いしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の利用者様のことを知った上で自立した生活を遅れるよう配慮している		

